

県人会 北から南から 福岡県人会 モットーはみんな“みんな楽しく” 連県行事にも積極参加



▲毎年4月には他県人会と一緒に新人勧誘に励む

休眠中だった福岡県人会が活動を再開させてから今年で4年目。現在も活発な活動を見せ、70人を超える会員が所属している。そのうち千葉県や東京都などの関東圏出身者が多数を占め、北九州市や柳川などの地元出身者が約3割ほどだ。

北島壮良会長(商3・福岡県東福岡高)は「“先輩、後輩の区別無く、みんなが楽しむ”ことが福岡県人会の特徴であり、モットーです」と話す。普段は昼休みや授業の空き時間などに生田会館2階の“ボックス”に集まり、歓談。ここでの話題によって新しい企画が生まれ、休日を利用したの「江ノ島・鎌倉日帰り旅行」など、毎年の恒例行事となりつつあるものもある。

夏、冬に行われる年2回の合宿が1年間の活動の中心となる。「福岡県内を訪れ、風土に触れて欲しいと思いますが、費用やスケジュールの面で調整がつかず、再開以来まだ実行されていません」と北島会長。昨年の夏は7月末に新潟・長野の県境にある苗場山を訪れ、スポーツレクリエーションなどを楽しみ、ガラス細工や竹細工などの伝統工芸を体験。今年の冬合宿では、新潟県でスキーやスノーボードを満喫した。

川島杯や青衿祭などの連合県人会主催行事やブロック行事、鳳祭などにも積極的に参加。「さまざまな活動を通して、他県人会の会員とも仲良くなれるのが県人会活動の魅力のひとつです」と小野康平くん(商2・宮城県福富谷高)は話してくれた。

北島会長は「年々会員は増えてきたが、地元出身者にももっと入会してほしい。今後は、連県やブロック行事以外でも他県人会と交流するような企画を行っていきたい」と抱負を語った。

[6月15日/ニュース専修14面]